

AI導入の効果、 どうやって測る？

業務改善の成果を数字で確かめるための考え方

AIを導入して数ヶ月——「効果は出ているのか、よくわからない」という声は珍しくありません。体感的には楽になったが、経営判断に使えるほど数字で見えていない。そんな状態を脱するための、シンプルな効果測定の考え方を整理します。

この資料の要点

- ・AIの効果が「見えにくい」のは、導入前にBeforeを記録していないことが最大の原因。
- ・時間削減・ミス率・処理件数の3軸から始めると、測定が続けやすくなる。
- ・数字に出にくい定性的な価値（判断速度・精神的余裕）も見落とさず記録することが大切。

なぜAI導入の効果は「わかりにくい」のか

AI活用を始めた企業から「効果があるのかよくわからない」という声をよく聞きます。感覚的には楽になっているのに、経営会議で報告しようと言葉が出てこない——その根本的な理由は、多くの場合「導入前の数字を記録していなかった」ことにあります。

Beforeがなければ、Afterと比較できません。AIの有無にかかわらず業務の繁忙はありますし、担当者も習熟度が上がります。そのため、時間が経ってから「以前はどうだったか」を思い出そうとしても、正確には思い出せないのです。

効果測定は、導入後ではなく導入前から始まる。

まず「Before」を記録する

測定対象として最も扱いやすいのは、繰り返し頻度の高い定型業務です。

- ・メール・文書の下書き作成にかかる平均時間
- ・請求書や帳票の入力・照合に費やす時間
- ・議事録や報告書の作成にかかる時間
- ・社内問い合わせへの回答にかかる時間と件数
- ・データ集計・レポートの作成時間

記録の精度は「1週間の平均値」で十分です。担当者に「1件あたり何分かかっていますか？」と聞くところから始めましょう。

3軸で測る——時間・ミス率・処理件数

- ・時間削減：1件あたりの作業時間（分）。最も測りやすく、ROI換算もしやすい。
- ・ミス率・手戻り率：誤入力・修正依頼の発生頻度。下書き生成やデータ入力自動化で下がりやすい。
- ・処理件数：同じ人員で対応できた件数。スループットの向上を示す指標。

この3軸をすべて追う必要はありません。自社が最も解決したかった課題と対応する指標を1～2つ選び、そこに集中して測定するほうが継続できます。

シンプルなROI計算の考え方

$$\text{ROI（％）} = (\text{効果額} - \text{コスト}) \div \text{コスト} \times 100$$

効果額の起点として最も計算しやすいのは、削減した時間を金額に換算する方法です。「月あたり削減時間 × 時給相当額 × 月数」で年間効果を試算できます。

コストには、AIツールの月額費用だけでなく、社員の学習・試行錯誤にかかった時間、プロンプト整備の工数、外部サポート費用も含めることが重要です。

数字に出にくい価値を見落とさない

- ・判断にかかる迷いが減った：たたき台があることで、ゼロから考える時間が減り、判断が速くなる。
- ・精神的な余裕が生まれた：反復作業から解放され、本来集中すべき仕事に向き合えるようになった。
- ・属人化が薄まった：特定の人が「いないと回らない」状態が、AIを介することで緩和された。
- ・スタッフの習熟が早くなった：AIによるサポートで、新担当者が独り立ちするまでの期間が短くなった。

月1回の短いアンケートやコメント収集で、テキストとして残しておくだけでも十分です。

効果測定を継続させる3つのコツ

- ・① 測定項目は最初から絞る：最初は1～2つの指標だけに集中しましょう。
- ・② 記録の場所を決める：スプレッドシートでも手書きのノートでも、「ここに書く」という場所を一つ決める。
- ・③ 月1回、10分だけ振り返る：定期的に数字を確認するだけで、変化のトレンドが見えてきます。

中小企業の実態に合わせてご支援しています。

ご相談・お見積りは無料です。

dnd-inc.jp/contact.html